

別紙

温室効果ガス排出削減計画

氏名	(法人にあっては名称) アサヒフォージ株式会社		住所	(法人にあっては主たる事業所の所在地) 〒 501-3772 岐阜県美濃市大字楓台72-2	
本票作成	部署名： 保全課				
主たる業種	分類コード	31	業種名： 輸送用機械器具製造業		
事業の概要	自動車部品ハブベアリングの鍛造				
県内の主な工場等	番号	工場等の名称		所在地	
	①	真庭工場		岡山県真庭市上河内3828-9	
特定事業者の該当要件	<input checked="" type="checkbox"/> ①燃料等原油換算1,500kl以上 <input type="checkbox"/> ②バス・トラック100台、タクシー250台以上 <input type="checkbox"/> ③CO <sub>2</sub> 換算3,000t以上 (●工場等の数 1 所 ●車両台数 (②該当の場合) 台)				

計画期間	令和 3 年度 ~ 令和 3 年度 ( 1 箇年度)								
削減目標	いずれかを選択	<input type="checkbox"/> 総排出量基準	目標削減率 0.3 %	目標区分	20%以上	20~15%	15~10%	10~5%	5%未満
		<input checked="" type="checkbox"/> 原単位基準							
温室効果ガス排出量	基準年度 (令和 2 年度)			目標年度 (令和 3 年度)					
	6,371 t CO <sub>2</sub>			6,351 t CO <sub>2</sub>					
基準年度の主な工場等の排出量	番号	工場等の名称		基準年度 (令和 2 年度) の排出量					
	①	真庭工場		6,371 t CO <sub>2</sub>					
				t CO <sub>2</sub>					
				t CO <sub>2</sub>					
				t CO <sub>2</sub>					

※ 「計画期間」欄には、5箇年度以内で特定事業者が定める期間を記入する。

(原単位基準の削減目標を選択した場合に記入)	温室効果ガスの排出量と密接な関係をもつ値の内容		原単位当たり排出量	
	生産重量		基準年度	目標年度
			366.760	365.660
		kg CO <sub>2</sub> / ( t )	kg CO <sub>2</sub> / ( t )	

(該当事業者のみ記入)

ベンチマーク	対象事業の名称	ベンチマーク指標	関連数値 (令和 2 年度)	達成率 (%)
指標の状況				

【目標削減率設定の基本的な考え方】

現在計画中の改善で、効果が予測される数値を考慮して、原単位基準0.3%削減を目標とした。

**【目標削減率達成のための推進体制】**

エネルギー管理者を中心とした、エネルギー削減取り組みの実施

**【排出量削減のためのこれまでの主な取組】**

工場等の名称	取組内容
真庭工場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電気力率100%の維持管理</li> <li>・電力監視装置でのデマンド管理</li> <li>・誘導加熱炉コイルの減処理化による消費電力削減（1台）</li> <li>・製品の作り込み改善による生産性向上</li> <li>・客先ニーズに柔軟する為、細やかな生産計画の策定による現場稼働の調整</li> <li>・計画停止による予防保全を実施し、チョコ停削減の実施</li> </ul>

**【計画期間中に目標削減率を達成するために実施する措置】**

工場等の名称	措置内容
真庭工場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電気力率100%の維持管理</li> <li>・電力監視装置でのデマンド管理</li> <li>・製品の作り込み改善による生産性向上</li> <li>・客先ニーズに柔軟に対応する為、細やかな生産計画の見直し策定による現場稼働の調整</li> <li>・計画停止による予防保全を実施し、チョコ停削減の実施</li> <li>・ショット工程でのドラム回転周波数の変更（≒20 [t Co2/1年] 削減見込み）※客先申請許可次第実施</li> </ul>

**【森林保全等吸収源対策への取組計画】**

県内での取組	無	
その他	無	

**【再生可能エネルギーの導入計画】**

県内での取組	無	
その他	無	

**【その他特記事項】**

基準年度となる令和2年度の前年度の数値の背景にコロナ禍による受注数減少、半導体不足による影響での客先設備停止、それに影響し生産調整での急なライン停止が多く発生した年度であった。それに影響して前年比温室効果ガス排出量が約27.4%減少し、生産重量は19.5%減少した。今も続いているコロナ禍や半導体不足の影響で先行きの予測が難しい為、今年度の計画は1箇年度に変更。